

奈良の登録有形文化財 シリーズ VOL. 2

きくすいろう

文化財名：菊水楼



【文化財概要】

名称：菊水楼

建築年代：旧本館 明治 24 (1891) 年
本館 明治 34 (1901) 年 2 月、

表門 庭門 江戸時代 (明治に移築)

構造及び形式等：旧本館 木造 2 階建
瓦葺 建築面積 299 m²、本館 木造
3 階建 建築面積 293 m²

表門 木造薬医門 瓦葺 間口 2.4m

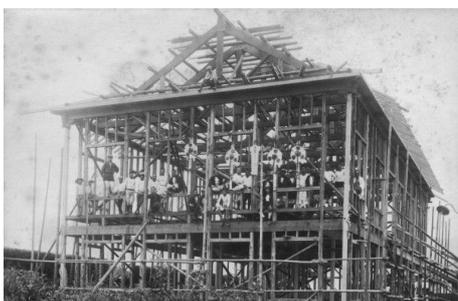
庭門 木造薬医門 瓦葺 間口 1.9m

登録基準：国土の歴史的景観に寄与
しているもの

登録年月日：平成 12 年 12 月 4 日

所在地：奈良市高畑町 1130

改修歴：令和 2 年 旧本館、本館の屋
根瓦や高欄の修理、改修



奈良の登録有形文化財シリーズ第 2 回は、品格ある料理旅館として長い歴史を刻む「菊水楼」です。

□ 建物の由来

この建物は春日大社参道に面し、背後に荒池を望む景勝地に建ち、明治時代から多くの賓客を迎えた格式あるたたずまいは、現在も変わりません。旧本館は、明治 24 年に建てられ、そこに増築する形で明治 34 年本館が建てられました。表門、庭門は、圓成寺塔頭の門を明治時代に移築したと伝えられています。

□ 建築の特徴

入母屋造り、棧瓦葺きで、旧本館は 2 階建て、本館は 3 階建ての純和風木造建築です。本館は、北から南に下る傾斜地に建てられているため、南から見ると、4 階建てとなる豪壮な建物です。正面玄関には、菊花をかたどった丸窓や、菊水の彫刻を取り付けた天井板など、店名の菊水楼に相応しい意匠が見られます。2 階、3 階にはぐるりと高欄がめぐり、側柱の上の舟肘木が特徴的な外観を作っています。内部は設えが各室ごとに異なっており、床の間、建具、金物など細部にまで拘った造りとなっています。

表門は本瓦葺き、総檜造りで、御扉は 2.2m×1m の 1 枚板が使われています。由緒ある寺から移築されたとの伝承に相応しい風格を持つ門です。

庭門は、古写真によると檜皮葺であったようですが、現在は瓦葺きです。繊細な花座間のある棧唐戸で、離れに向かう路地に設けられています。



□ 登録の経緯

明治時代から長い歴史を持ち、三条通からの眺望が春日大社大鳥居前の景観に欠くことのできないものとして、平成 12 年に国の登録有形文化財に登録されました。

令和 2 年に、登録有形文化財美観整備事業の補助を受け、高欄、屋根瓦等の修理、小屋組み等の補強工事が行われました。

【記：奈良ヘリテージ支援センター 山本規子】

登録有形文化財について

登録有形文化財はどんな文化財？

登録有形文化財制度は平成8年（1996）に出来た新しい制度で、背景にはバブル期（1986～1991）の古い建物の喪失とバブル期後の低迷した社会、重ねて阪神淡路大震災での建物の崩壊がありました。地域の風景は一変し歴史的な建物は一度無くなると元に戻らないことを痛感しました。文化財指定であれば補助金が出るが、地域で親しまれた価値ある建物は無くなる運命にありました。

そこで、50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録し、届出制という緩やかな規制を通じて保存が図られ、活用が促されるようになりました。「登録」は、「指定」よりも規制が緩やかなため、所有者の方が、自主的に文化財建造物を活用しやすく守っていくことができる制度です。

この頃から、建築界も新築から再生の仕事が増え、町づくりの中に組み込まれ、地域での建築士の活躍が注目されるようになりました。



杉山小児科医院診療棟
大正（1912-1925）
2006年登録
大和郡山市本町
（登録プレート）

外観はハーフティンバースタイル 伝統的な街並みにあってランドマーク的存在



登録有形文化財の登録にはまず建物が存在する市町村の文化財を扱う課と県の文化財課に相談し進めていきます。建物の歴史的背景、建築的価値などを調査し国に意見具申を行い文化審査会の審議、決議を経て登録となります。文化庁からの視察や審議会の時期により物件にもよりますが登録までには2年程度かかることが多いです。

登録の基準

原則として建設後50年を経過したもののうち

- ①国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ②造形の規範となっているもの
- ③再現することが容易でないもの

登録制度の対象となる建造物の種類

建造物・・・住宅 事務所 工場 社寺 公共建築 等
土木構造物・・・橋 トンネル 水門 堤防 ダム等
その他の工作物・・・煙突 塀 櫓 等

登録有形文化財の件数

全国14,616件（建造物）（令和8年1月1日現在）
分類別では住宅が最も多く、宗教関係、産業3次と続き
県別では大阪（884件）兵庫（798件）京都（667件）と
関西勢が上位を占めています。奈良県は341件（94カ所）

件数は建物単位で数え、一つの住宅に主屋、離れ、蔵が登録された場合は3件。登録件数は全国で増え続け地域の文化を掘り出すことに寄与しています。

優遇処置 届け出

- 保存活用に必要の修理等の設計監理料1/2を国が補助
 - 地方公共団体などの行う公開活用事業にかかる費用の1/2を国が補助
 - 相続財産評価額（土地を含む）を3/10控除
 - 家屋の固定資産税を1/2控除
 - 文化庁から管理修理に関する技術指導や助言を受けられる
 - 観光拠点整備事業の「磨き上げ事業」の対象となり外観の改修に補助金が出る。地域の観光に寄与し地域の魅力を高めることが条件となる。（平成31年～）
- *補助内容に関しては県又は市町村の文化財課等に確認すること。（文化庁のホームページも参照）
- また、屋根、外壁、間取りを変えるなど基本的に届出が必要であるが、内装に限定した改修や「通常望見できる範囲」の1/4以下であれば不要。

活用事例

登録有形文化財制度は建造物の活用が行われ易いことが特徴で、制度が浸透するにつれて様々な活用が広がってきて、町づくりや地域活性化に役立っています。また、制度が出来てから30年が経ち戦後の建物も対象となることから著名な建築家の作品も登録され残る傾向にあり、各時代の文化として建築の価値が評価されています。



岡田家住宅 明治初期 奈良町の伝統的な町家 登録2014年
町家の前部分が雑貨屋を開店。格子を反（かえ）して外と中が
つながる。
店内は町家の構成を上手に活かしている。 雑貨屋「山笑う」

登録文化財の登録はヘリテージマネージャーが担当することが多いため信頼を得ています。士会の講習会に参加しスキルを磨き実際に登録を経験し歴史的な建造物の保存活用に関わることは、過去の建築技術に触れられると共に、地域への関心が深まります。

【記：住まいまちづくり委員会 徳本雅代】

令和8年新年大交歓会の開催



1月16日、恒例の新年大交歓会がホテルリガール春日野にて開催されました。会には京都府建築士会山領会長をはじめとする来賓の方々、会員、賛助会員など約90名が出席しました。

冒頭、中尾会長より参加者へ、日頃の多面的なご協力に対する感謝の言葉とともに、今年度の士会活動の報告および今後の事業への取組みについての挨拶がありました。各事業を通じ、脱炭素社会の実現、次世代人材の育成、地域建築産業の活性化に貢献する決意を熱く述べられました。

具体的には、「歴史的建造物や町家の防災・空き家対策、断熱と耐震改修を一体的に進め、安全・安心な活用による持続可能なまちづくりと、災害時に迅速に対応できる官民連携体制を構築」、「JR万葉まほろば線沿線の集落・町並みをモデル地域とし、歴史的建造物保存活用に向けた条例づくりの勉強会の実施」、「近畿建築祭奈良大会の開催の準備協力および参加の呼びかけと共にそれに向けた人材育成講座の実施」などが紹介されました。あわせて、「委員会体制の再編による、防災・景観・空き家・木のまちづくり・福祉分野を推進すること」、「公共建築の木造化推進として全国植樹祭お野立所デザイン提案への参画」、「県木造技術講習の継続」、「学生インターンシップ事業」への取組みについても触れられました。

続いて、京都府建築士会の山領会長より来賓挨拶があり、その後、事務所協会中西会長による乾杯の御発声で懇親会は始まりました。会場では、時間の許す限り、参加者は属性を超えて交流を深め、大いに盛り上がりました。最後は紀本副会長の三本締めで中締めとなり、盛会のうちに閉会しました。

【記：天理支部 庄田尚代】

奈良県建築士会奈良支部主催 令和7年度 秋季交流会

11月28日、奈良支部賛助会員様と奈良県建築士会会員との秋季交流会を開催致しました。奈良支部の枠を超えて、賛助会員様と建築士会会員との交流を深めることができないかと始めた企画ですが、この交流会も今回で第三回目となりました。

第一部のボーリング大会は、奈良ミ・ナーラにて開催致しました。ボーリングは誰でも気軽に楽しめるスポーツだけあって、各レーン笑顔が絶えない、楽しいひと時となりました。ゲームに熱くなって普段仕事上では見られない素顔を発見できたのではないのでしょうか。(笑) 最高スコアは2ゲームトータル350点超えとかなりの達人もいらっしゃいましたが、個人的には日頃の運動不足がたたり出だしくじけてしまい、残念ながら今年も商品ゲットならずでした。去年は3ゲーム行いましたが、さすがに最終ゲームになると疲労が見えたので、今年は2ゲームとさせていただきました。ストレス発散には丁度良い、心地よい汗をかけたように思います。



第二部は、奈良市大宮町の昭和酒場「大西」にて懇親会を行いました。第二部からご参加いただいた方も含め総勢24名と、過去最大人数での懇親会となりました。乾井支部長の挨拶から始まり、ボーリング大会の表彰式や、賛助会員の皆様には自己紹介と各社のPRを行っていただいたり、会話と笑いの絶えない賑やかな会となりました。奈良支部では、この交流会を通して、普段なかなか関わる事ができない賛助会員の皆様や、他支部の方との繋がりが深まるきっかけとなる事を目指しておりますので、各所で会話が弾む様子は、今後の建築業界の元気にも繋がっているように感じました。



賛助会員の皆様、建築士会会員の皆様には、お忙しい中交流会に足を運んで下さりありがとうございます。次回はより多くの方に参加していただけるよう、楽しい企画を考えて参りますので、今後とも宜しくお願い致します。 【記：奈良支部 瓶割 環】



ヘリテージマネージャーのための 「文化財建造物保存修理技術講習会」

奈良県建築士会では文化庁の助成を受け、令和5年度より主にヘリテージマネージャー向けの「文化財建造物保存修理技術講習会」を3年間実施しました。概要は「士会なら令和6年5月号」でも紹介しましたが、カリキュラムは5日間、延べ25時間の講習です。

令和7年度第1回は橿原市今井町「華葦」で、終日講義、第2回は同じく「華葦」で講義と今井町のまち歩きと共に、重伝建地区内にある某物件を確認し、その修理方針・修理計画・活用提案をまとめる演習を行いました。第3回は桜井市の「ゲストハウス和櫻」にて講義とまち歩き、レストランや宿泊施設に活用されている国登録有形文化財や古民家カフェを視察した後それらを管理・運営されている都市再生推進法人桜井まちづくり(株)理事長より、リノベーション



華葦での講義風景

事業等の説明を受け、グループ討議により改修方法や法的問題点について意見交換がなされました。第4回は五條市の五條新町「まちなみ伝承館」でNPO法人大和社中の理事長より重伝建と保存修理についての説明とまち歩き、午後からは某物件の実測実習を行いました。グループ討議では、実測した物件の修理方法や活用についての意見交換がなされました。第5回は興福寺にて現在工事中の五重塔修理事業の概要の説明と現場見学、午後からはならまち花園町で古民家宿泊施設を運営されている「西村邸」で講義と改修についての説明を受けました。また、前回に実測した五條新町の物件について、受講生個々に活用提案の発表を行い、全行程を修了。3年間で延べ34名の修了者が誕生しました。



国登録有形文化財 旧吉野銀行

和社中の理事長より重伝建と保存修理についての説明とまち歩き、午後からは某物件の実測実習を行いました。グループ討議では、実測した物件の修理方法や活用についての意見交換がなされました。第5回は興福寺にて現在工事中の五重塔修理事業の概要の説明と現場見学、午後からはならまち花園町で古民家宿泊施設を運営されている「西村邸」で講義と改修についての説明を受けました。また、前回に実測した五條新町の物件について、受講生個々に活用提案の発表を行い、全行程を修了。3年間で延べ34名の修了者が誕生しました。



興福寺修理研修風景

今後は修了された皆様、伝統的建造物等の保存修理事業の業務に携わる専門家としてご活躍頂くことをご期待致します。

【記：奈良ヘリテージ支援センター 紀本澄男】

近畿あーきてくと Vol.33

空家が動けば地域が変わる～空き家再生のリアルに迫る～

1月24日、大阪市城東区蒲生四丁目（通称「かもよん」）エリアにて、空き家再生をテーマとした近畿建築士会協議会青年部会が主催の『近畿あーきてくと』に参加してまいりました。



午前は街歩きとして、空き家を活用した飲食店や改修事例を見学しました。築年数を重ねた長屋や蔵を再生し、新たな用途を与えることで、まちに賑わいと回遊性が生まれている様子を実地で体感することができました。単体の建築再生にとどまらず、エリア全体を視野に入れた段階的な取り組みが、地域ブランドを形成している点が非常に印象的でした。

午後の講演会およびトークセッションでは、一般社団法人かもよんにぎわいプロジェクト代表理事 和田欣也氏、NPO 法人空き家コンサルジュー 有江正太氏、一般社団法人ちはやあかさかくらす代表理事 田中力哉氏をお迎えし、それぞれの実践事例と課題、そして事業として継続させるための視点についてご講演いただきました。

空き家再生は、単なる建築行為ではなく、地域経済・コミュニティ形成・行政連携を含めた総合的な取り組みであることが示されました。また、「空き家は地域に眠る資源である」という共通のメッセージは、建築士としての職能の可能性を再認識させるものでした。

本事業を通じて、建築士が地域にどのように関わり、持続可能なまちづくりに貢献できるのかを改めて考える機会となりました。



【記：青年委員会 塚本将貴】

第12回近畿の魅力ある 和の空間巡行 in 京都



1月24日、近建女（近畿建築士会協議会女性部会）事業として、京都府乙訓郡大山崎町にある「聴竹居 CHOCHIKUKYO」を見学しました。聴竹居は、建築家・藤井厚二氏が昭和3年に建てた自邸で、約12,000坪の敷地に環境共生の思想を反映させ、試行錯誤の末に完成した5番目の住宅です。平成29年には国の重要文化財に指定されています。当日は近建女のメンバー24名が参加し、竹中工務店・聴竹居倶楽部の松隈章氏にご案内いただきました。聴竹居は2016年より竹中工務店が所有し、災害復旧および保存修理を経て、2023年に竣工当時、95年前の姿に復原されたとのこと。天王山を背に静かに佇む姿は凛として美しく、随所に施されたディテールに心を打たれました。写真はたくさん撮影しましたが、都合により掲載できません。文章では伝えきれない空気感は、ぜひ現地でご体感していただきたいと思います。（聴竹居の見学予約は公式Webサイトからできます）

以下、各建物について一言ずつ記します。

「閑室」は、藤井氏が思索に耽るための仕事場空間で、家具や照明に至るまで自ら設計されています。奉書紙を5枚重ねた太鼓張りの壁や床下から空気を取り入れ小屋組みへと抜く「クールチューブ」による換気システムから、建築を「身体」に近い存在として捉えていた藤井氏の思想を学びました。

大きな窓を備えた開放的な「茶室」では、藤井氏の茶名が「聴竹居」であったことや、建具にガラスをはめず、水音や周囲の気配を取り込む工夫など、音までも設計対象としていた姿勢が感じられました。

「本屋」では、内開きドアの玄関ホールや椅子座の応接間に暮らしの所作が丁寧に読み取れます。三方を横連窓に囲まれた縁側の圧倒的な開放感、戸先や戸尻の細工、一枚板の床材など、細部の一つひとつが、現代の私たちに多くの学びを与えてくれました。

【記：女性委員会 庄田尚代】

第43回近畿建築祭 「奈良大会」開催告知

平素は奈良県建築士会の活動にご協力・ご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、令和8年11月28日（土）に奈良県桜井市三輪を舞台に、「第43回近畿建築祭 奈良大会」を開催させていただきます。

本大会は「ヤマトの歴史と文化を知っていただき、縁結びの神が宿る地、三輪で交流を深めましょう!」をコンセプトに開催致します。

午前中は大会式典、午後からは交流会とエクスカーションという流れを予定しております。

その中でも、「交流会」という今までにないスタイルでの開催を考えておりますので、かなりの人数の奈良県建築士会会員の皆様にお手伝いしていただかなくてはならないと予想しております。

近畿建築祭は全体事業でもありますので、奈良県建築士会が一丸となって作り上げていく必要があると考えております。また、近畿の建築士会は「近畿はひとつ!」をスローガンに活動しております。皆様には大変ご苦勞をお掛けするとは存じますが、本大会の成功のために更なるご尽力の程、宜しくお願い申し上げます。

以下、大会概要となっております。ご一読ください。

【大会名】 第43回近畿建築祭「奈良大会」

【大会コンセプト】

「ヤマトの歴史と文化を知っていただき、縁結びの神が宿る地、三輪で交流を深めましょう!」

【大会テーマ】

「やまとはくにのまほろば～はじまりの地

“三輪”で縁結び～」

【大会カラー】 蘇芳色（すおういろ）：奈良県の県章（シンボルマーク）にも採用されている色です。

【大会概要】

開催日：令和8年11月28日（土）

会場：三輪山会館

参加対象：近畿二府四県の建築士会会員、奈良県建築士会参与/賛助会員様

【大会スケジュール】

第一部：大会式典

第二部：交流会

第三部：エクスカーション

【参加人数】

第一部・第二部共：約300名

第三部：約200名

【記：第43回近建祭奈良大会実行委員長 坂本慎二】

お知らせ

●令和7年度受賞者のご紹介

旭日小綬章 甲村 侑男 (高田支部)
 旭日双光章 中本 明 (高田支部)
 西峯 隆司 (宇陀支部)
 日本建築士会連合会表彰
 会長表彰 溜谷 剛 (天理支部)
 東 康朝 (五條支部)
 伝統技能者 平川 善久 (天理支部)

●令和8年度通常総会の日程 (予定)

開催日：令和8年5月22日 (金)
 会 場：ホテルリガーレ春日野

●合格おめでとうございます (奈良県)

令和7年一級建築士試験 合格者数 30名
 二級建築士試験 合格者数 55名
 木造建築士試験 合格者数 2名

●入会

木村 吉成 様 (奈良支部)
 餅井 博雄 様 (奈良支部)
 尾藤 徳和 様 (高田支部)

よろしくお祈りします。

●奈良県建築士会会員向けメール配信

サービス。まだの方ご登録ください→



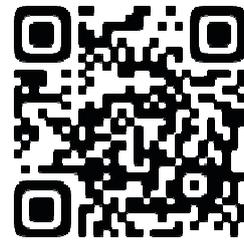
編集後記

『読者アンケートへご協力を』

前回2026年1月号から、表紙デザインをリニューアルいたしました。いかがでしたか？ 実は、もう一つの変化として、お知らせページに、「士会奈良に関するアンケートフォーム」を掲載していました。お気づきになったでしょうか？ すでに数名の皆様から貴重なご意見・ご感想をいただきまして、ありがとうございました。

このアンケートでは、建築士会会員の皆様が自ら声を上げていただくことで、「士会奈良」をより魅力的なものにする狙いがあります。どのようなことでも結構ですので、お気づきの点やご要望など、右の二次元コードを読み込んで、ご回答いただけますと幸いです。

「士会奈良」へのご意見・ご感想フォームはこちら



匿名での回答が可能ですので、お気軽にご記入ください

【記：情報・広報委員 本多健一】

3月 6日 (金) 歴史的建造物災害対応講習会
 18日 (水) 令和7年度第6回理事会

4月 1日 (水) 建築物省エネ法改正

士会奈良

通巻666号
 令和8年3月1日 (発行隔月1回1日発行)
 発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
 〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
 電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333
 WEBサイト：https://nara-kenchikushikai.or.jp/
 e-mail：info@nara-kenchikushikai.or.jp
 発行責任者 中尾七隆
 編集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長 伊藤 吉郎
 副委員長 小西 直樹 福田 成生
 委員 吉村 晃人 本多 健一
 高杉 明 永友 翔
 松尾 憲治 上柿 範兼
 吉田 泰造 松田 輝明
 小松原寛俊 大和 良樹
 押部 誠 白谷紀久雄



1級建築士 合格実績 No.1

平成28～令和7年度 1級建築士 学科+設計製図試験

全国ストレート合格者占有率 **10年間** **59.2%**
特許利用 当学院 受講生
 全国ストレート合格者合計 14,345名 / 当学院受講生 8,493名

★学科・製図ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受検生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和7年12月24日現在)

無料ガイダンス・体験講座 随時受付中!! 1・2級建築士 1・2級施工管理 宅建士 設備士

総合資格学院 奈良校

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

TEL: 0742-30-1511

株式会社総合資格の人材サービス

総合資格navi

(新卒採用)お問合せはこちらのQRから→

